

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
カラーコーディネート Color Coordination		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ファッションフィールド科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ファッションフィールド科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
阿部芳子	福祉棟3F	授業内に指示する		授業中に指示します
授業の概要				
色彩の基本的な理論や知識を学び、ファッションビジネス社会で生かせるよう基本的知識を習得する。①ファッション産業における色の役割を理解し、②色彩の知識を持って実践力をつけることを会得する。				
授業の目標				
ファッションビジネスでは①色を作るテキスタイル産業、②色を選ぶアパレル産業、③色を（お客様に）見せるリテール産業について理解し、④さらに時代にあった新しい色（売れる色）を生み出し、全行程を指揮するカラー・デザイナー（コーディネーター）の仕事についても学ぶ。⑤色彩について、深い知識とセンスを身につけることは、今、世界に通じる感性として求められ重要であることを理解できるようになる。				
授業の方法				
講義中心。テキストとカラー見本で基本を理解し、資料と色彩運用技術で色彩実務スキルをアップ、さらに提案や調査による提出物で、色彩の理解と着実な色彩運用能力を高める。				
学習の成果（学習成果）				
①ファッション色彩の基礎知識、技術を学ぶことで、アパレル産業、小売産業などで、アシスタント的業務につき、ある程度の自己判断をしながら、色彩に関する業務を遂行することができる。②商品企画・デザインに関する業務であれば、商品色の原案を目的に沿って提示できる程度の色彩技能（スキル）をもつことができる。③販売関連業務であれば、店頭で色彩的な視点から商品陳列、展示できる技能・技術をもち、接客では、個々のお客様に対し初歩的なカラー・コーディネートをアドバイスすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション 色の作法について ①産業における色彩 ②ファッション産業と色彩			
第2回目	色彩理論 光、視覚、心理			
第3回目	色の表示 色名 三属性による色の表示方法			
第4回目	配色と色彩調和 流行配色 調和の技術 自然な調和 まとまり感と明瞭感			
第5回目	ファッションイメージとカラーコーディネーション 季節のイメージ ファッションイメージ (小テスト)			
第6回目	日本の色 古典的な配色ーかさねの色目 陰陽五行と冠位十二階			

第7回目	ファッション産業における色彩計画 ①ファッション産業において色彩を取り扱う姿勢		
第8回目	ファッション産業における色彩計画 ②情報としての色彩 情報の整理と分析 (レポート)		
第9回目	パーソナルコーディネーションと色彩 ① [ドレーピング体験]		
第10回目	パーソナルコーディネーションと色彩 ② 色・素材の質・形との関係 (小テスト)		
第11回目	色が人に与える影響 カラーセラピー		
第12回目	商品企画における色彩計画 カラーコンセプト 配色と色の見え 生産段階における色彩計画		
第13回目	色彩の役割まとめ 検定試験にむけて対策		
第14回目	生活環境と色彩 インテリア・エクステリア・プロダクツ・メディア		
第15回目	販売における色彩計画 VMDと色彩 ディスプレイやファッションへの応用		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	30%	授業に集中し、与えられたテーマを自ら考えて、感じたり表現できているか。
	レポート	30%	自らの考えでまとめ、内容にあった提出物となり、期限に提出されているか。
	調査報告書		
	小テスト	20%	授業1回～13回で、色について考え、感じ、理解し、表現できているか。
	試験		
	発表内容 (態度含む)		
	その他	20%	ノートの提出、授業理解の確認
教科書と参考図書			
教科書：ファッション色彩 I・II (ファッション色彩能力検定試験準拠)		配色カード158a	
(財)日本色彩研究所		Lovery C	
olar (財)日本色彩研究所		参考書：FASHION COLOR (財)日本色彩研究所	
履修上の留意点・ルール			
積極的に授業に参加することを望む。スケッチブック、色鉛筆準備、検定試験は別途説明する。			